

＜白金標準先物、「需給に勝るものなし」・・・＞



(出所：オアシス)

先週は FRB のインフレ抑制の動きを受けた小売売上高、生産者物価指数（PPI）、鉱工業生産などが尽く低下するなど、景気後退のリスクが高まりを見せだしている。特に貴金属で「金融商品の金」と「景気商品の白金」の価格の動きは今年に入り真逆の値動きを行うなど、FRB や ECB などの中央銀行の金融政策に沿った値動きを見せている。

しかし相場には「需給に勝るものなし」の格言が存在する様に、需給バランスが存在する白金市場も同様である。

特にプラチナ供給の 72%を占める南アフリカでは、電力不足が慢性的となるなど昨年 210 日間の負荷制限を実施しており、エスコの電力供給の 14%が鉱山で消費されている事を考慮しても同国の鉱山稼働率は低下している状況である。特に昨年 11 月の鉱物生産高は前年比で 10.2%低下し、12 月も 9%低下しており、PGM は 2021 年 11 月から 2022 年 11 月に掛けて 22%の低下を示すなど同国の生産高の減少の主な原因とされている。

またエスコは 4 月から 18.65%の電気料金の引き上げが承認されるなど、白金族金属の 13%が 19%まで電力コストの上昇に繋がる計算となり、需給に照らし合わせても白金標準先物で 4200 円を割り込む先週の安値 4173 円は売られ過ぎの域と思える。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ止まり、**シグナル** は下げている。RCI は**短期**が切り上げだし**長期**は下げ止まるなど、オシレーターは目先の下値の峠を越えた可能性が強まった様に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,920,000 円(2023 年 1 月 23 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 1 月 23 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>